

漆

清
廉
潔

白



R18
ADULT ONLY



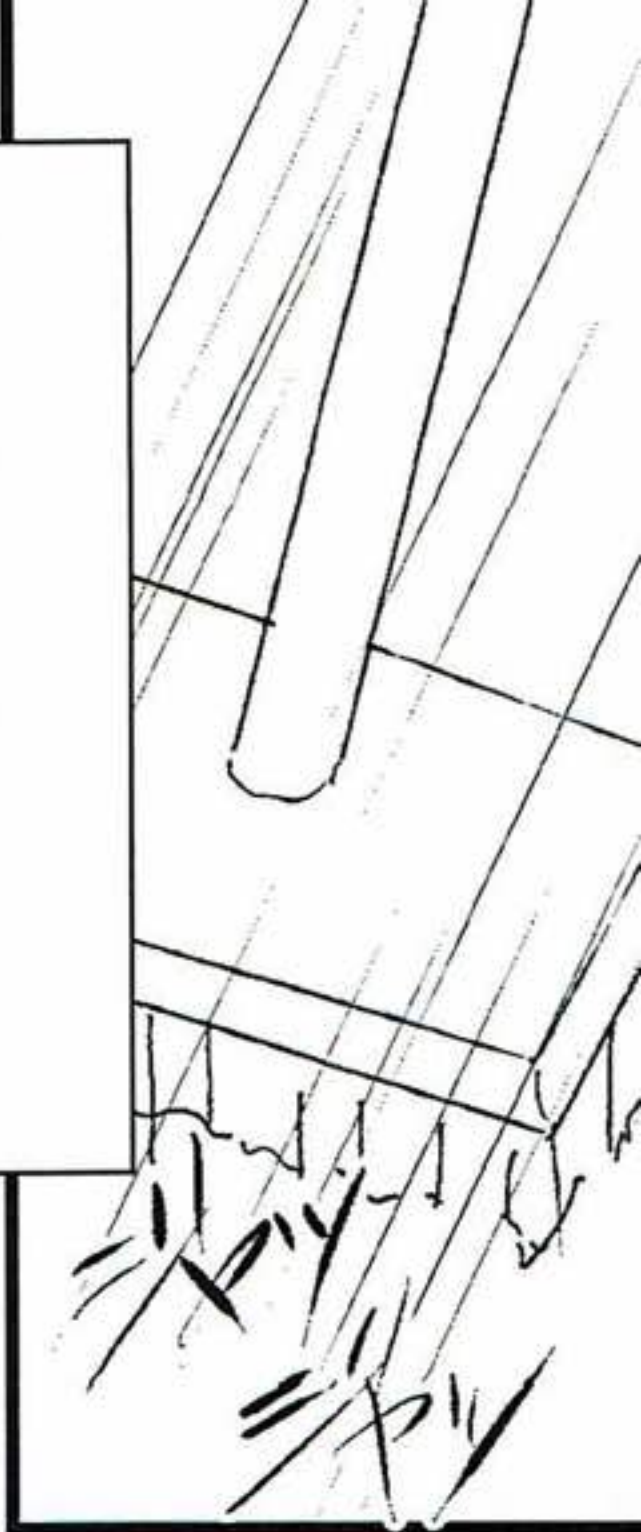


涙が止まらな...

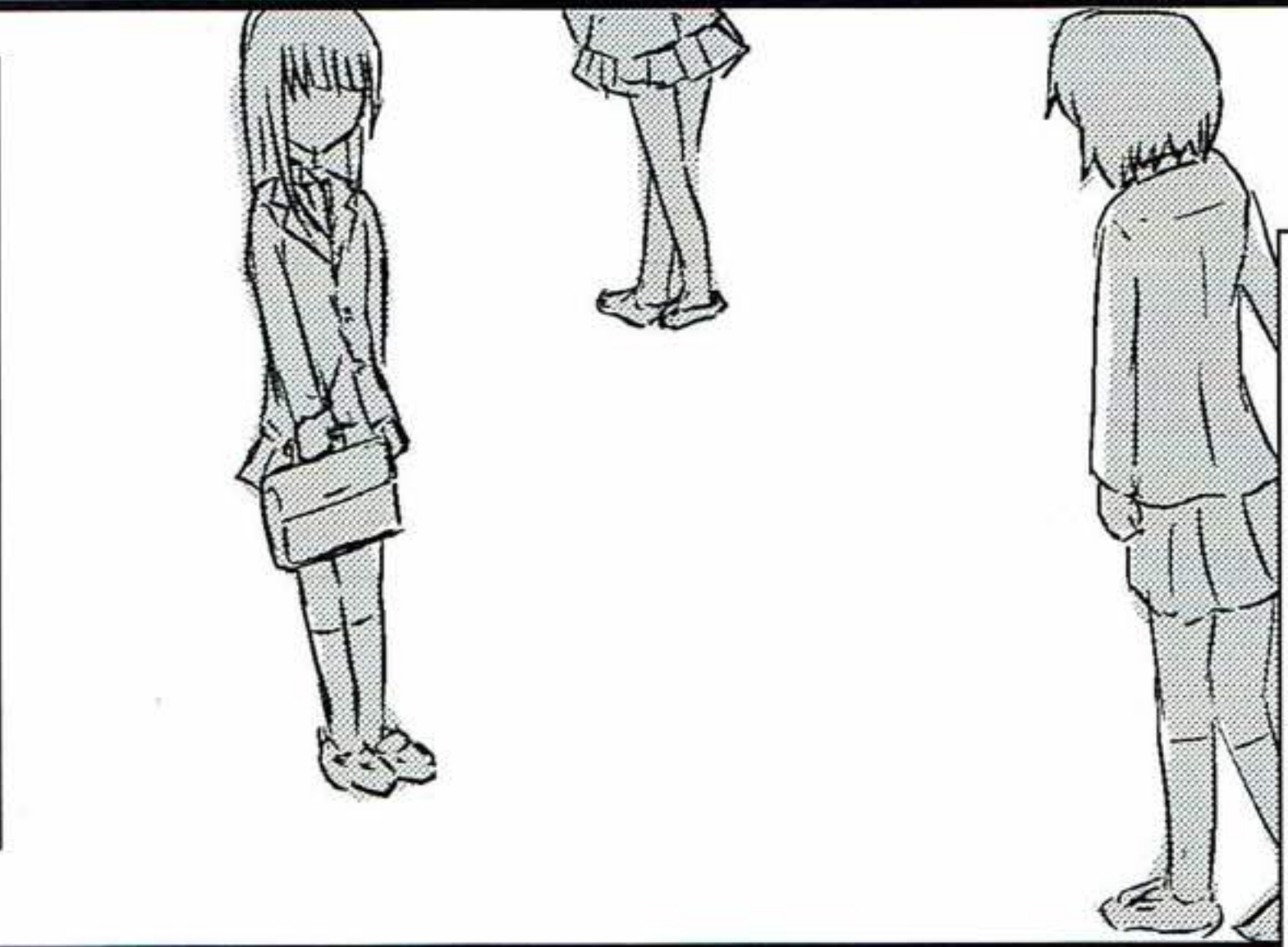
用務員と言っても「こ」では
なんでも屋みたいなので
こっつしてトイレ掃除までやっている



東京にある名門女子Oで
僕は用務員として働いている



理事長と縁のあるところの
息子で家に引きこもっていた
僕に白羽の矢が立った



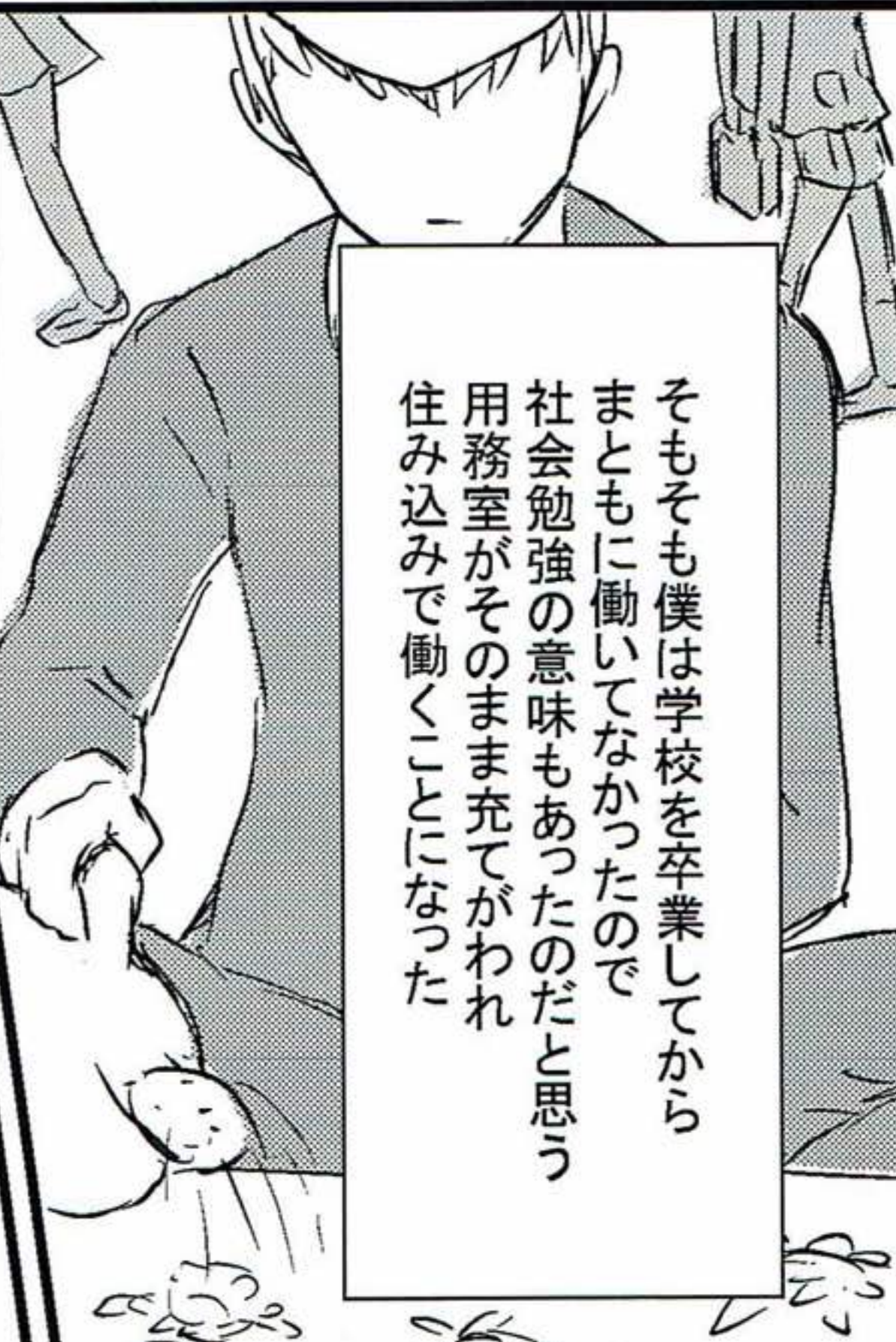
ベテランの用務員の方が
しばらく休むということ

こんなところで
働いているのは
完全に親のツテに
よるものだった



ただ 知り合いの息子だからと
半ば脅しに近い形で
こちらにも監視されながら
働かさせられているのが実感だ

お嬢様校にこんな男が
いるのもどうなのかと思う



そもそも僕は学校を卒業してから
まともに働いてなかった
社会勉強の意味もあったのだと思う
用務室がそのまま充てがわれ
住み込みで働くことになった

だから僕も
ここに通う子たちには
できるだけ関わら
ないようにしている

少しでも問題視されたら
自分を家から
出してくれた親に悪い

それに…そもそも
誰も僕に声を
かけたりしてこなかった
でも…

おはようございます
用務員さん

この子
宇野沢さんだけは
いつも挨拶してくれた

あ…おはよう…
宇野沢さん

電球交換とかかな…





あっ

う…宇野沢さん？



これ 部のみんなで作ったんですけど作りすぎちゃって…配って回ってるんです



なので
用務員さんもどうぞ

あ
ありがとう



それじゃ
失礼しますっ



…

宇野沢さんは麻雀部の一人
らしかったけどなぜかいつも
部員とお菓子を作っては
僕に届けてくれた



そんな日々の中で僕は
考えてはいけないことを
考えてしまうようになった

彼女のことを知りたいー
ただもう少し話がしてみたかった
考えてはいけないのに
それしか考えてられなくなっていた

いつも通りあの子が僕に
声を掛けてくれるように僕も…

そんな想いを抱いたこと自体
いけないことだったし
そんなこと考えなければ
そのあと悲しい思いもしなかった…

う
宇野沢さん！





!

「めんなさい！」



……う



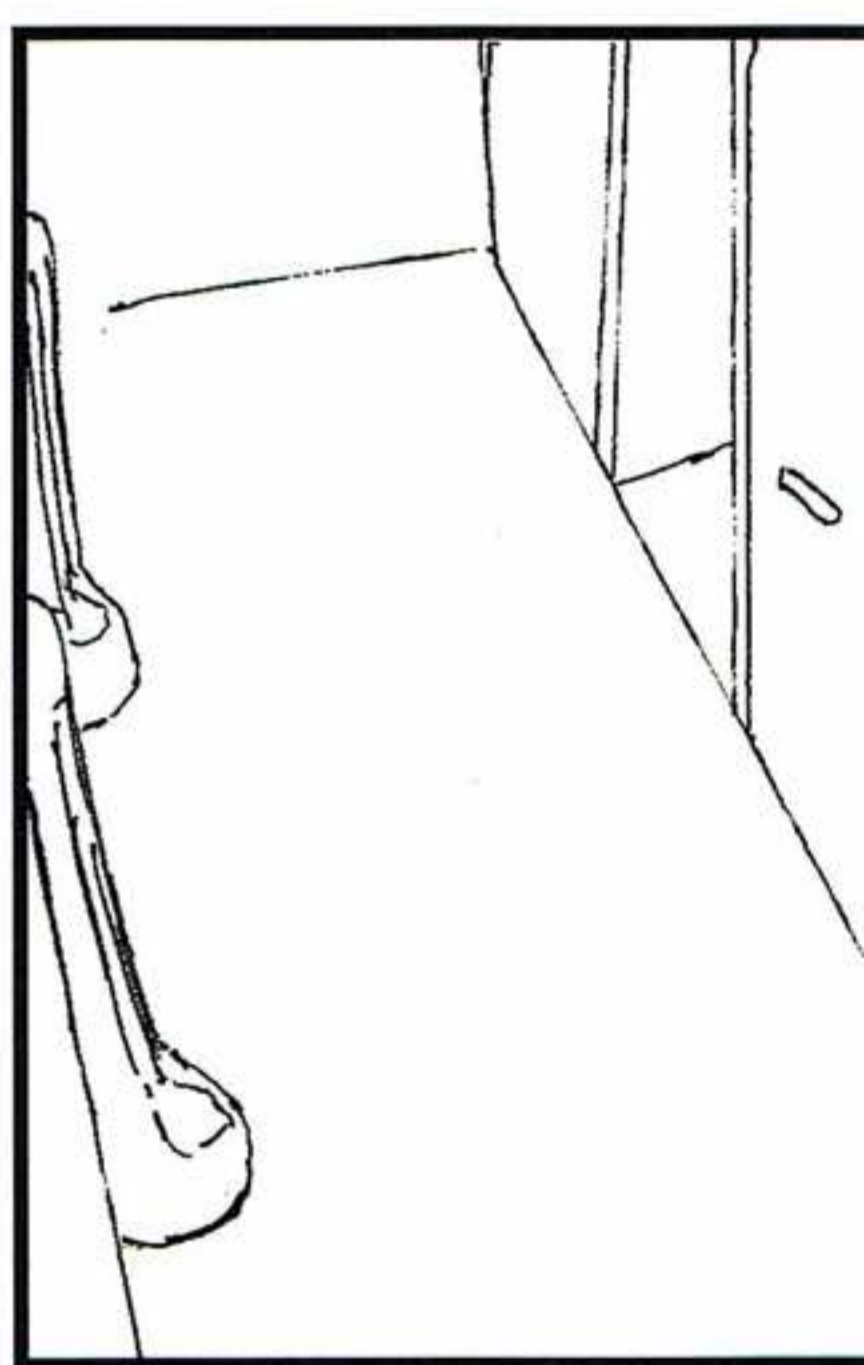
はい？

ああの…



自分から人に話しかけるなんてもう何年していませんでした

しかも女の子に…その結果がこれだ



ゴシツ

カア

…？



変なやつって思われたらどうかな…



あっ！



この声……

やっどどどどど
こんなっ



はあ……

はっんっ

すぐ誰かに報告しよう
考えた……でも



間違いない
宇野沢さんの声だ！
相手は……男の教師……？

それしか考えられない
男性は自分以外では
教師しかいない



あ……ん

よく聞いてみると
完全に抵抗している
わけでもない……

僕が知らなかっただけで
彼女は誰かとそういう関係
だったのかもしれない……

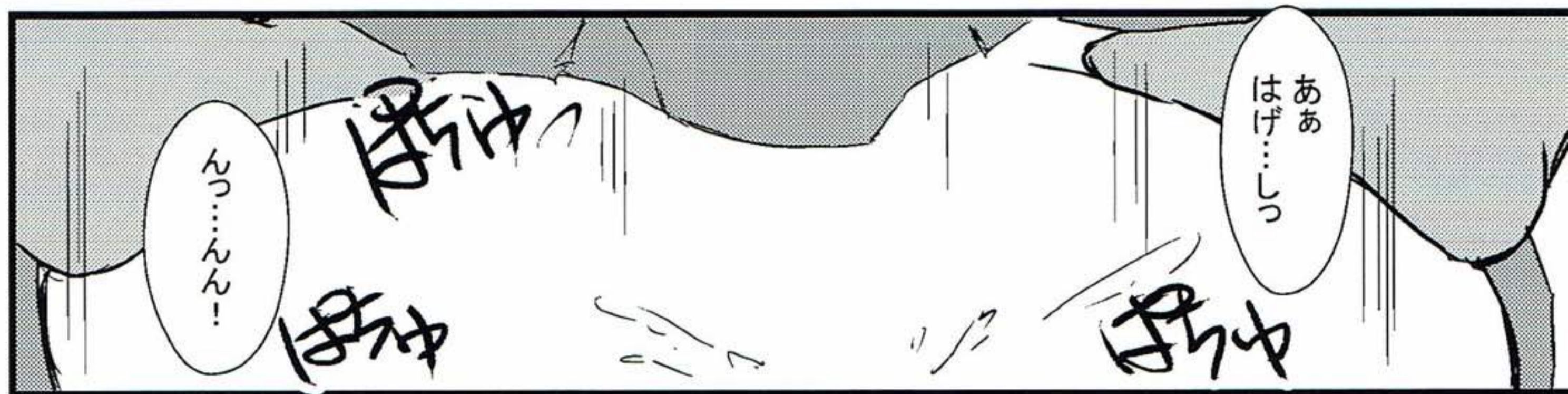
薄い壁一枚なだけに
音だけからその画が
みるみる浮かび上がっていく
彼女の少し嫌がっていた声
わずかに甘い声に
なったことで状況が
変わったのだとすぐ分かった





はっ ああ
こん...な

いついきな...り



ああ
はげ...じ

んっ...んん!



あ...っ

ああっ!





あーあー...あーあー...
あーあー...

あー
だめ...っ
奥...っ



あーあー...
あーあー...
あーあー...



だめ...いつちや...
うはあ...っ



わっあー...
あーあー...



あ…はい
わかりました…

んん…んん♡

う……



用務員さん！



ただ…年頃の子なら
そうなのかもしれない
自分が世間を知らなすぎた
だけなのかもしれない



彼女にあんな側面が
あったなんて
知らなかった



あ…あれ…
ごめんね…

あの…昨日の
ことなんですけど…



おはよう
ございます

!? 宇野沢さん
おはようございます…



つてあれ…学生証
落として行っちゃった
あとで渡してあげないと…

宇野沢さんは優しいな…



ありがとう

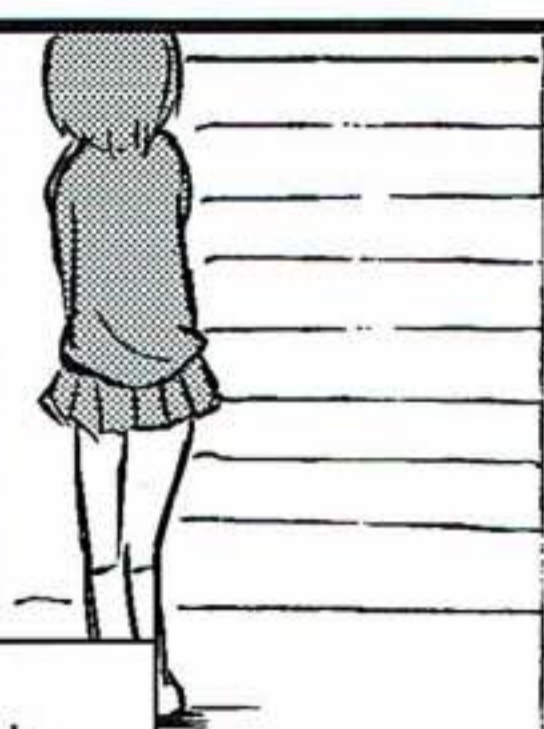


いいえ！私 誰にも
言いませんから！

この時間なら
まだ教室に…



あ
宇野沢さ—



あれは…

そうか…あれが…

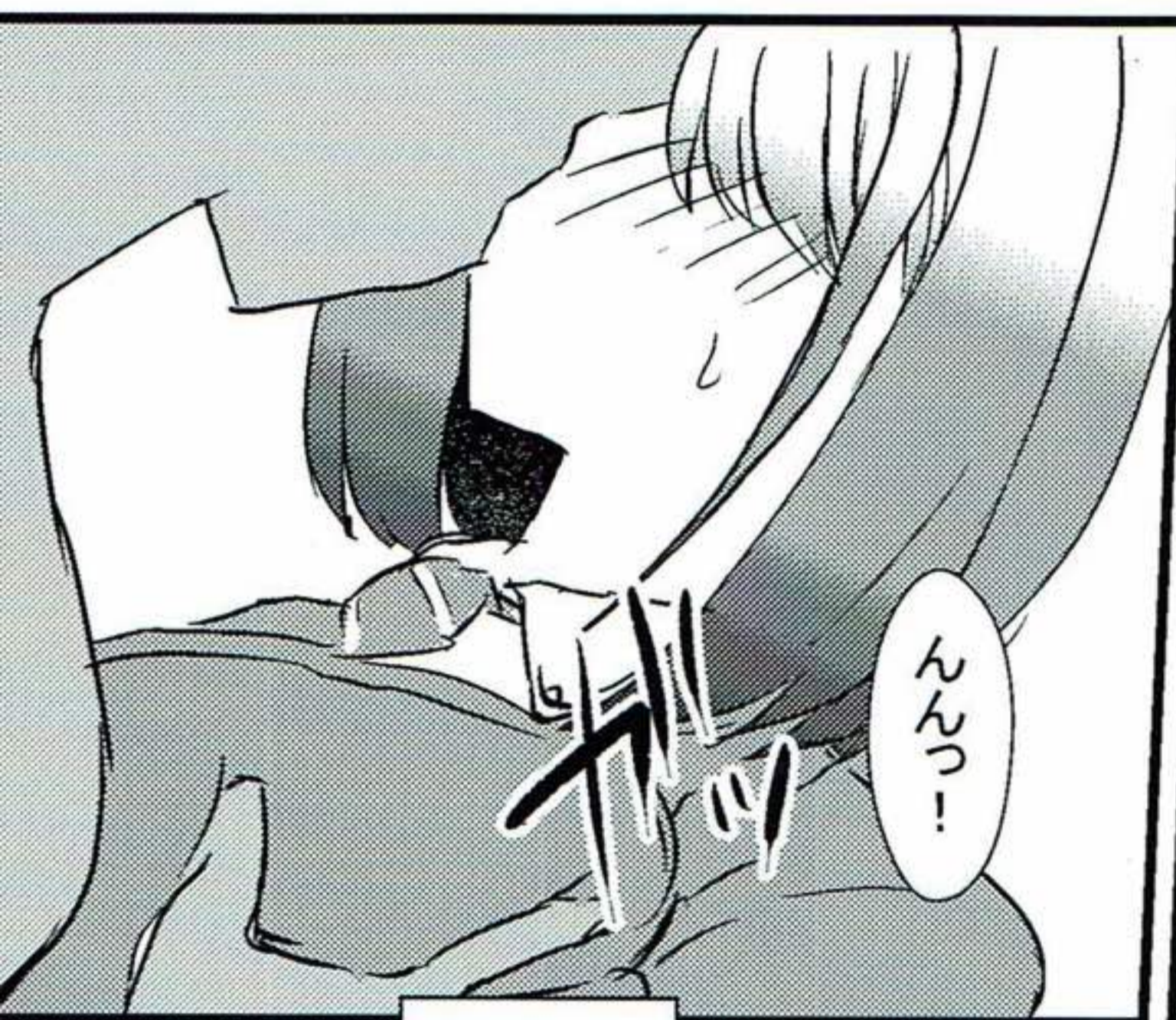


「ごちを見た…!?

…



…あとで渡す
「ア」
「ア」
「ア」





はっあ
大きい…

はい…
どうも

!!



アアア

ぬぬぬ

アアア



どんだん硬くなって...

はっ あっ

アッ

アッ



あっ はい
動かします

あっ すいっすい

はっ あっ

あっ すいっすい



あっ いま
ビクビクって

はい...っ たくさん
気持ちよく
なってください...っ!

アッ

アッ

はっ あっ



わっ
ああ!

あっまだ
出て...



あっ

はるん



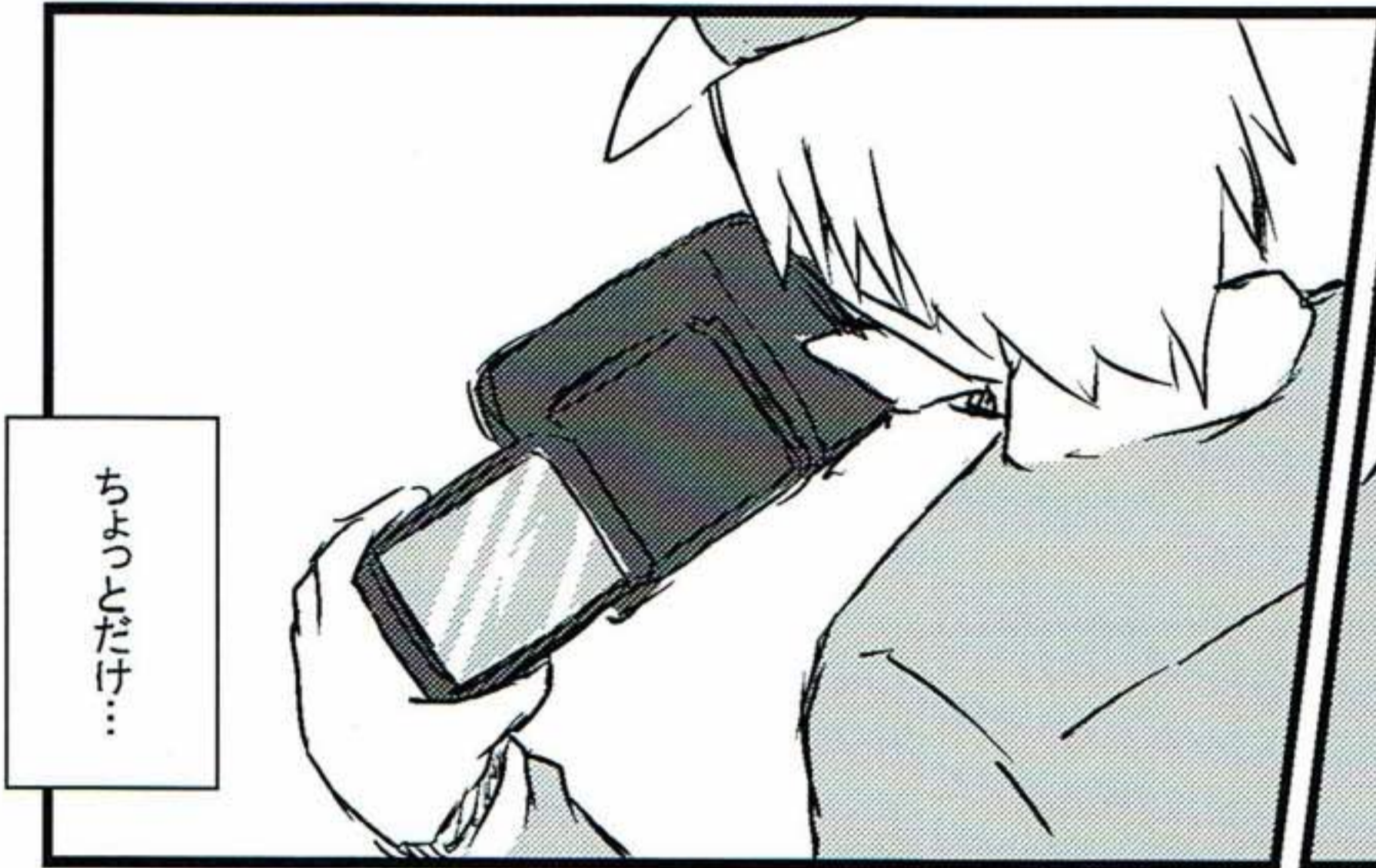
あっ

はるん



たくさん:
出ましたね

.....





あっ
あっ♡

ああっ



!? 宇野沢さん……!
なんで……その先は……!



……そのデータは
削除して返した

僕が意識を失ったあと
二人は行為を続けていた

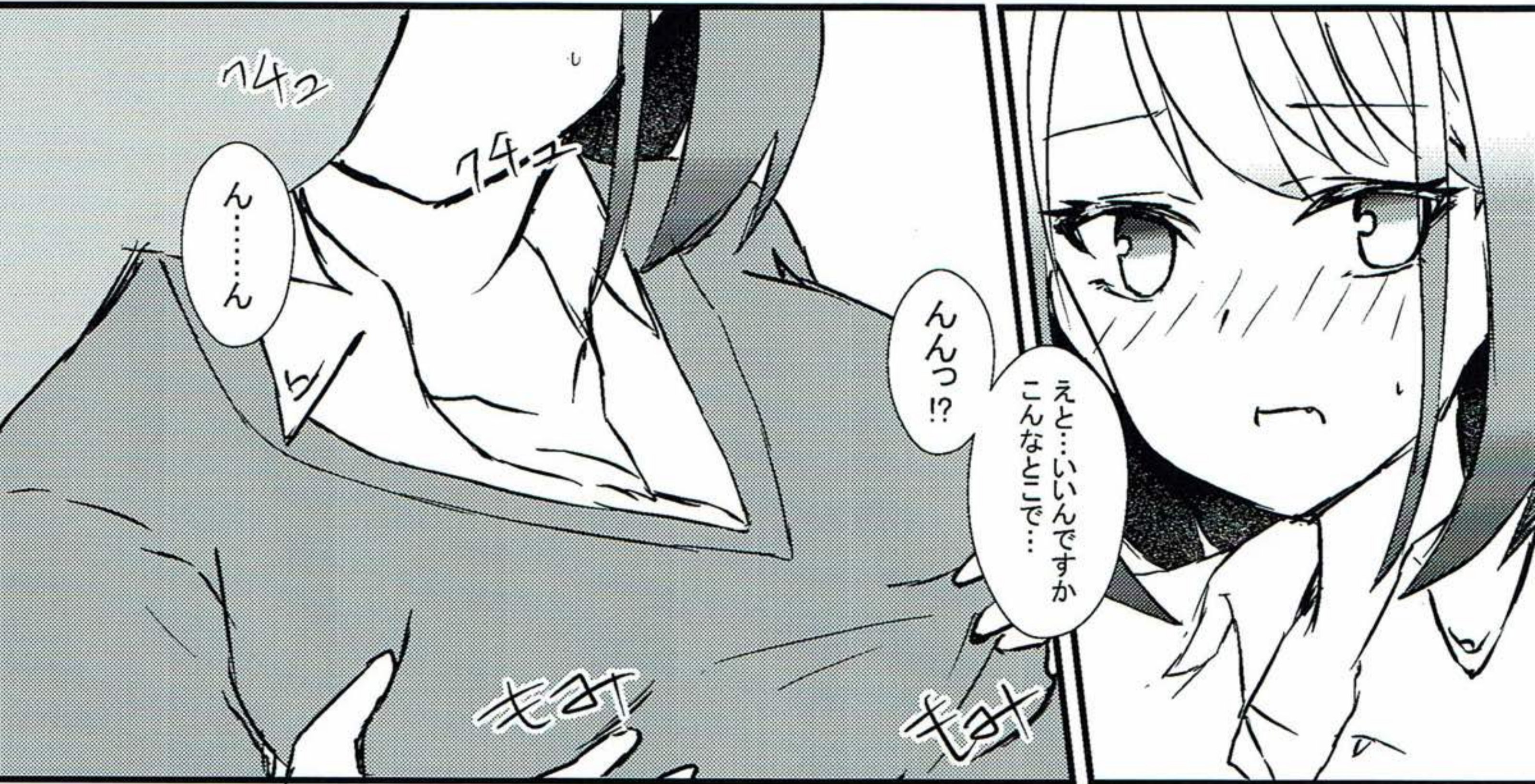
ビデオカメラには
その後の内容が
記録されていた

僕への当てつけなのか
何を伝えたかったのか
僕には何も分からなかった

事務室

ガラッ

宇野沢さん……!





あっん
そこ…だめ…っ





はあ...はあ...



あ...!



.....







結局僕は二人がしている
ところを見ている
ことしかできなかつた

何もできることなんて
無いとわかって…
ようやく分かつた

なぜなら僕は



用務員さん

おくづけ

■発行誌名 清廉潔白 漆

■発行日 2017/12/31
コミックマーケット93

■制作 Road Side Roman

■印刷 テイズプリント 様

■ HP <https://roadsideroman.wordpress.com/>
Mail sirazawa99@gmail.com

※無断転載・複製等禁止。
※18歳未満の購入・閲覧禁止。



2017 Winter, Seiren Keppaku 7
Road Side Roman